



加藤 元の



と暮らして  
みませんか

26

犬は人間の言葉の内容や意味を理解できませんが、人間が話すときの気持ちや感情は十分に理解します。犬は言葉で話をしないだけに、いつもふれあっている人のわずかなしぐさ、表情や声の変化、気配といったものを素早く直感的に知ることができると、あなたも言葉が分かるように見えるのです。それほど通じあえるのです。

日頃から十分なコミュニケーションとスキンシップができている犬なら、飼い主がいつもと違う声の調子でしかるだけでも、多くの場合は効き目があります。なぜなら、「良いことをする」といつもほめられる」と分かっているから、良

「ほめる」と「しかる」

## 日頃からコミュニケーションを

いこととダメだということがはっきり分かるのです。

しかし中には、しかるとうなったり、咬みつこうとさえするようになることもあります。一度でもこうしたことがあって、そのままにしておく、後でとんでもない厄介なことになりかねません。悪い芽は早く摘み取ることが大切です。反抗する犬には、飼い主がリーダーであることを繰り返し教えることが必要です（8、9回参照）。

通常と違う「ノー」や「ダメ」という声の調子だけで飼い主の望まない行動が止まれば、さっそく、ほめてやりましょう。臆病で神経質な犬には、やさしく時間をかけてほめ、また、いばりやでわがままな犬には、大げさにほめてやり

ます。

しかるコツは、大げさに身構えず、いきなり犬に背を向けて立ち去るか、完全に犬を無視してしまうことです。そして、良い子に戻れば、基本の「おすわり」「ふせ」「待て」「おいで」をさせて、できたら必ずほめてあげましょう。うまくいかない場合は、しつけや訓練の専門家を全国的に紹介しますので、遠慮なくご相談ください。素人の判断と体罰は、犬にも人にも良いことは一つもありません。

（ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長）

《産経新聞2004年10月3日掲載》